



会派みどり
木下八重子

子育てしやすい環境づくりについて

【質問】 就学前児童を有する親から1年中通して就学前児童たちが遊べる施設が欲しいという声を聞く。

市内の各公園などには遊具などが設置されているが、冬期間は雪のために使用ができない。そこで1年間通して使用できる室内の遊び場を確保することが必要だと思うが、公共や民間施設の空きスペースを活用したり、新施設を建設するなどの考えについて伺う。

【答弁】 子どもが通年で遊べる施設については、第2期滝川市子ども子育て支援事業計画の策定に先立つアンケート調査において、多くの声が寄せられたこともあり、「冬期間や雨天時にも安心して遊べる屋内遊園施設の設置を検討する」と計画にも記載しています。

具体的には、公共の空きスペース活用なども含め、個別施設計画の策定会議において検討・協議す



るなどした経過はありますが、同計画は方向性を定めるための調整に時間を要し、具体的な検討は遅れているため、子どもの遊び場についても、不確定な状況となっております。

ご要望については認識していますが、コロナ禍の厳しい財政状況の中、公共施設は将来負担の圧縮を図る必要がありますので、将来的な市全体の公共施設の在り方を検討・協議する中で、新たな遊び場の設置について引き続き市民ニーズの把握に努め、可能性を探っていきたいと考えています。

【質問】 現在、冬期間使用可能な施設は何か所あるか。

【答弁】 花月地区児童センターや花月地区子育て支援センター、一の坂地区子育て支援センターなどは、冬期間でも子どもたちにご利用いただいています。



会派みどり
山本 正信

市内におけるインターネット環境の整備状況について

【質問】 コロナ禍において、テレワークやWeb会議にはインターネット環境の整備が欠かせないが、市内の現状について伺う。また、近隣市町では、コロナ対策予算により光回線を農村部まで整備したとの話も聞くが、本市としての可能性について併せて伺う。

【答弁】 市内の光回線は平成15年度に流通団地で提供が開始されてからエリア拡大が進み、現在5か所の回線収容局および子局すべてにおいて光回線対応になっています。しかし、回線事業者としてはADSLの提供が終了することから、エリア拡大について具体的な計画までは整理されていないことです。

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した整備については、総事業費が5億6,000万円、市負担分が1億6,000万円となることから、

今回は市民生活を守るための事業を優先して取り組みました。モバイル通信による回線も高速化や提供エリアの拡大が進んでおりますので、今後もさまざまな可能性を含めどのような方法があるか勉強していきます。

テレワークの推進と受け入れ住環境の整備について

【質問】 コロナ禍でのテレワーク推進と住環境の整備について、当市として都市部から地方への移住推進対策の取り組みについて伺う。

【答弁】 移住推進のため、民間事業者と提携して「住まいネットワーク」を市公式ホームページに掲載し、移住希望のある方に活用していただいています。

これまで各種移住対策を実施してきましたが、結果として移住に結び付けるのは難しいと認識しています。しかし、コロナ禍の今、地方への関心が高まっており、地方に居ながら仕事ができるテレワークの普及は、今後の移住施策を進めるうえで重要な要素であり、関係人口の創出・拡大とあわせて検討していきます。